



いきいき

小富士っ子



R5学校便り No17

令和5.12.7

四国中央市立
小富士小学校



師走というけれど、心にゆとりを持ってゆっくりと!!

12月のことを師走と言います。「師が走る」と書いて「師走」で、皆さんもご存じだろうと思いますが、師走の「師」は僧侶であるという説が語源として有名です。かつては冬の季節、僧侶を招いて読経などの仏事を行う家が多かったため、お坊さんが東西に忙しく走り回る事となり、「しがはせる」から「しはす」になり、後に「師」と「走」の字を当て「しわす」となったと言われています。別の説に、「師」は「師匠」の「師」で、普段落ち着いているように見える先生も年末を迎え、慌ただしく走り回る時期だからとする説があります。学校はその慌ただしい学期末になりますが、子どもたちにとって、12月は大切な締めくくりの時期です。心にゆとりを持ち、そして、子どもたちと一緒にゆっくり丁寧に2学期を締めくくりたいと思います。



宇摩の偉人



尾藤二洲先生像

四国中央市は来年（令和6年）に20周年を迎えます。皆さんご存じのとおり、川之江市、伊予三島市、土居町、新宮村の2市1町1村が合併して四国中央市となりました。愛媛県を除く四国3県全てと隣接している正に四国の中央に位置する市です。かつては四国中央市を中心とした地域を宇摩と呼んでいましたが、この地域は、今も昔も四国の交通と文化の真ん中となっており、歴史に名を残している偉人が次々と輩出している

ます。小富士には、小富士三先哲と呼ばれる偉人がいます。近藤篤山さん、安藤正楽さん、白木豊さんの3人です。小富士三先哲のことはよく知っていますが、近藤篤山さんは、尾藤二洲先生から儒学を学びました。尾藤二洲先生は、川之江出身の儒学者で「寛政の三博士」の一人です。日々努力を怠らず勉学に励み、ついには「寛政の三博士」と呼ばれるまでになったのです。二洲先生は大阪で塾を開き、塾生と共に多くのことを学び、生活する上で心掛けたいこととして「座右十戒」をまとめました。篤山さんがそれを宇摩に持って帰り、広めました。今年尾藤二洲没後210周年になりますが、二洲先生の教えは、今も大切なことばかりですね。近々、4年生が二洲先生のことを学習します。私たちも小富士三先哲や尾藤二洲先生をはじめ宇摩の偉人の皆さんから、その知恵を学びたいですね。

- 一、何かするときは、そのことに集中しなさい。
- 二、がんこにならないで、人のいいところを見習いなさい。
- 三、動作はひかえめにして、偉そうにしないこと。
- 四、言葉はかんたんにして、しゃべりすぎないこと。
- 五、何かをする前に、まずその善悪を考えなさい。
- 六、物に接する時は、正しい方法を選びなさい。
- 七、すべての事において、機会は逃さないようにしなさい。
- 八、たったひとつであっても、きまりは破らないこと。
- 九、みんなという時は、人の意見に流されないこと。
- 十、ひとりである時も、つつしみをわすれないこと。